

『生きる力を育む講演会』が実施されました

10月12日(火)、1年生を対象として、『自分の夢に向けた自己実現をめざして』をテーマに生きる力を育む講演会が実施されました。1週間前の10月6日(水)には、保護者の皆様や外部講師をお招きして『職業講演会』を開催しましたので、生徒は、2週間にわたって将来にターゲットをあててじっくりと考える機会になりました。11月の末には2年時の文理選択について最終判断を下すことになっている1年生にとって、夏休みの職業研究を第一段階とするなら、この連続企画は、それぞれの分野で活躍される方々の生の熱い(厚い)言葉を聴き、自らの将来設計を真摯に考えようとする第二段階ともいえるでしょうか。

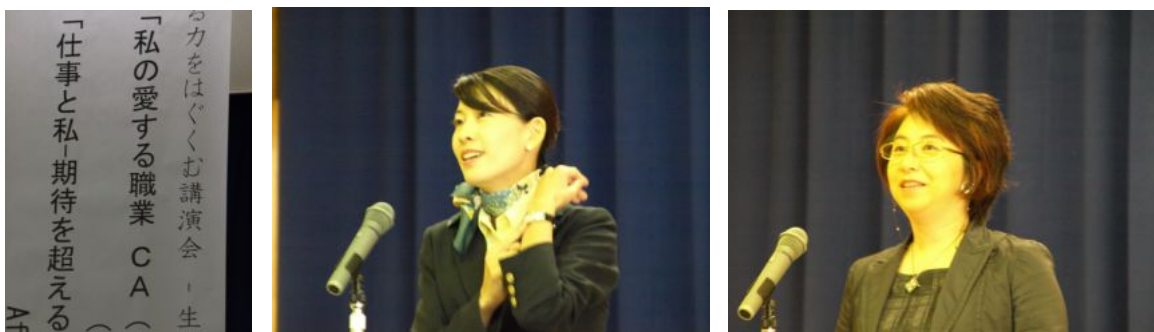
講師としてお二方をお招きし、次のようなテーマでご講演いただきました。

(株) JAL ウェイズ・キャビンアテンダント 馬場 千佳子 氏 「私の愛する職業 - CA」

(外資系保険会社) 内部監査部長 久保 理子 氏 「仕事と私 - 期待を超える」

大学在学中にCA(当時はスチュワーデス)の採用試験に合格し、学業とフライトとを同時にこなしながら、国際線の乗務員としてビジネス路線を担当しておられた馬場氏は、結婚後心身の疲弊のために退職をやむなくされたものの、18年後、経験者採用の応募に応え、仕事に復帰。以後アジア路線を中心に活躍しておられます。しのぎを削る航空業界の中であって、一期一会のお客様のために、その安全と快適さを守るべく全身を傾けておられる氏のパワーの源は、「私はこの仕事が好きに尽きる」とのことでした。

また、求人票を見た第一印象「おもしろそう」を拠り所に、外資系の会社に入り、各部署を経験した後、ご夫君の海外転勤を機に一度は退職されたものの、帰国と同時に再びアルバイトとして元の会社に復職、やがて正社員となった後、社内公募に応じて「監査」という仕事と真っ向勝負される久保氏。アラを探して非をあげつらうのではなく、社内のやや距離を置いたところから熟視し、より前進、より向上できる方策を互いに考えていく材料を発掘・提供するのが仕事と、監査の役目、そしてその必要性を説かれました。



お二方のご講演の後、引き続き姫路西高等学校での恩師でもある石原校長先生との「鼎談」が行われました。お二方の高校時代の印象や思い出話の後、実は今回の企画が5年に一度の同窓会がご縁になっており、卒業生を招いて話をしてもらうことが校長先生の積年の夢であったこと、そして、一度辞めても復職して頑張るというお二方の共通点が「負けん気」であることなどを、校長先生はお二方への質問を交えながら話されました。その後、生徒からの様々の質問(「CAになるための英語力は?」「モットーは何か?」「収入はどの程度か?」など)に応じていただき、最後の「幸せですか?」との問いに、「はい」との迷いのない両氏のお返事で、講演会は締めくくられました。



生徒の感想文から

馬場千佳子さんの講演を聞いて

- ◇一度職を辞めたからこそ、その仕事が好きになれたと言われていました。自分の経験を全て今に生かしておられるんだなあと思いました。私も中学時代の部活動で、けがで練習できなくなったとき、自分にとって部活が生活の一部で、大切なものだ気づかされたことがあり、共感できました。
- ◇一度CAをやめてからまた戻ったときの仕事への愛は、お話を聞いているだけでもすごく感じました。私もそう思える仕事に就けたら、とても楽しいだろうし、幸せだろうなと思いました。「生きるんじゃないくて、生かされている」という言葉は、1番印象に残っています。1人では何もできないんだと感じました。周りの人がいるから自分が生きられる。このことを忘れないようにします。

久保理子さんの講演を聞いて

- ◇自分から進んでなつたと聞いて、久保さんは、格好いいと思いました。またそれは久保さんは仕事を愛しているからできることなのだろうと思います。「やるからには、楽しんでやる」、この心を持っていこうと思います。そして「自分の期待を超える」「自分の考えている最高を超える」という気持ちで努力していきます。「恥ずかしがらず、自分らしさを出すこと」「恐れずに新しいことに挑戦すること」、これは勇気がいりますが、その勇気で自分を変えていこうと思います。
- ◇私が印象に残ったことは、「わからないのに自分のやることを制限するのは勿体ない」という言葉です。これから私はたくさんの壁に出会うと思います。しかし、それを超えられないと思って、自分を制限するのではなく、ポジティブに自分の期待を超えられるように頑張っていきたいです。